



80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番号 ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしゃ
<p>長からむ心も知らず黒髪の ながからんこころもしらずくろかみの</p>	<p>秋風にたなびく雲の絶え間より あきかぜにたなびくくものたえまより</p>	<p>淡路島かよふ千鳥の鳴く声に あわじしまかようちどりのなくこえに</p>	<p>瀬を早み岩にせかるる滝川の せをはやみいわにせかるるたきがわの</p>	<p>わたの原漕ぎ出でて見ればひさかたの わたのはらこぎいでてみればひさかたの</p>	<p>契りおきしさせもが露を命にて ちぎりおきしさせもがつゆをいのちにて</p>	<p>憂かりける人を初瀬の山おろしよ うかりけるひとをはつせのやまおろしよ</p>	<p>高砂の尾上の桜咲きにけり たかさごのおのえのさくらさきにけり</p>	<p>音に聞く高師の浜のあだ波は おとにきくたかしのはまのあだなみは</p>	<p>夕さればかどたのいなばおとづれて ゆうさればかどたのいなばおとづれて</p>	番号	上の句	下の句	作者
<p>乱れて今朝は物をこそ思へ みだれてけきはものをこそおもえ</p>	<p>もれ出づる月の影のさやけさ もれいずるつきのかげのさやけさ</p>	<p>いく夜ねざめぬ須磨の関守 いくよねざめぬすまのせきもり</p>	<p>われても末に逢はむとぞ思ふ われてもすえにあわんとぞおもふ</p>	<p>雲るにまがふ沖つ白波 くもいにまがうおきつしらなみ</p>	<p>あはれ今年の秋もいぬめり あわれことしのあきもいぬめり</p>	<p>はげしかれとは祈らぬものを はげしかれとはいのらぬものを</p>	<p>外山の霞立たずもあらなむ とやまのかすみたたずもあらなん</p>	<p>かけじや袖のぬれもこそすれ かけじやそでのぬれもこそすれ</p>	<p>芦のまるやに秋風ぞ吹く あしのまるやにあきかぜぞふく</p>	番号	上の句	下の句	作者
<p>待賢門院堀河 たいけんもんいんのほりかわ</p>	<p>左京大夫顕輔 さきょうのだいぶあきすけ</p>	<p>源兼昌 みなもとのかねまさ</p>	<p>崇徳院 すとくいん</p>	<p>法性寺入道前関白太政大臣 ほつしょうじにゅうどう さきのかんぱくだじょうだいじん</p>	<p>藤原基俊 ふじわらのもととし</p>	<p>源俊頼朝臣 みなもとのとしよりあそん</p>	<p>権中納言匡房 ごんちゅうなごんまさふさ</p>	<p>祐子内親王家紀伊 ゆうしないしんのうけのきい</p>	<p>大納言経信 だいなごんつねのぶ</p>	番号	上の句	下の句	作者